

第 2 章

市の概要

1 自然・地理の状況

私たちが住む昭島市は、東京都のほぼ中央に位置し、都心部から西方に約35キロメートルの距離にあり、東及び北は立川市、南は八王子市及び日野市、西は福生市に接しています。

市の位置は、東経139度、北緯35度で面積は17.34km²、その広さは多摩地域の26市中12番目(30市町村中15番目)です。市の広がり、東西6.06km、南北3.88km、周囲19.58kmのほぼ長円形をしています。



気候は温暖で、年間の降雨量（市役所で観測）は、平成27（2015）年から令和元（2019）年までの5年間の平均でみると、約1,585mmとなっています。地勢は、北西から南東に向かって多摩川までゆるやかな傾斜があります。海拔は、約77mから約170mまでとなっていますが、一番高いのは、八王子市との境で、多摩川右岸の滝山部分となっています。

地質は、多摩川沿いの低地が沖積層、その北側の台地は洪積層の武蔵野台地と呼ばれ、いわゆる関東ローム層に厚く覆われています。また、このローム層の下の砂れき層には、豊富な地下水が含まれ、これが段丘の崖下などに露出して湧水となっています。

本市の南部を西から東に流れる多摩川は、市面積の10パーセントほどを占める広さで、その背景に、滝山丘陵や奥多摩の山々を望むことができます。中央部には、多摩川由来の崖線（河岸段丘）が東西に連なり、また、北部には玉川上水が流れ、その両岸は武蔵野の面影を残す雑木林で覆われています。このように、本市の市域は水と緑に恵まれた環境にあります。

また、交通網にも恵まれ、幹線道路としては国道16号や奥多摩街道が走り、中央高速道路八王子ICや圏央道あきる野ICなどにも近く、鉄道としてはJR青梅線・五日市線・八高線、及び西武拝島線が通っています。そのため、都心へは1時間弱と通勤圏にあり、また、同程度の時間で奥多摩の自然に触れることもできます。商業施設や文化施設へのアクセスにも恵まれ、暮らしやすい良好な環境にあります。

2 まちのあゆみ

昭島市は、昭和29（1954）年5月1日、当時の北多摩郡昭和町と拝島村が合併して、東京都で7番目の市として誕生しました。

昭和36（1961）年に多摩川の河川敷から産出したアキシマクジラの化石から、有史以前にはこのあたりが海であったことを知ることができます。この発見により、内陸であるにもかかわらず、クジラが本市のシンボルとなっています。

市域は、南向きの段丘に位置し、陽あたりがよく、豊かな湧水にも恵まれ、居住環境には適していたものと思われます。そのため、多摩川に沿った河岸段丘から林ノ上遺跡や上川原遺跡などの縄文遺跡が発見されており、そこからは、9千年以上も前から人々が住んでいたことや、その暮らしぶりを知ることができます。

ちなみに多摩川は、万葉集には「多麻川」として登場し、その他の古書には「丹波川」、「玉川」などとも書かれています。名前の由来は諸説ありますが、「玉のような美しい川」から、玉川転じて多摩川とする説もあります。鎌倉時代には、武蔵野台地の開墾が進められ、集落の形成が一層進みました。このため寺社や文化遺跡が多く残されています。この頃には多摩川の河岸段丘に沿って居住地域が存在し、時には氾濫による水害もありましたが、人々は、多摩川の水や豊富な湧水を、水田や飲み水に利用していたことがうかがえます。この恵まれ

た水資源は、市のまちづくりの礎となり、深層地下水100%の飲用水は、市の宝となっています。

江戸時代には、市域は幕府直轄領で、郷地、福島、築地、中神、宮沢、大神、上川原、田中、作目、拝島の10ヵ村（後に、作目村が田中村に合併され、9ヵ村となります。）がありました。当時の村落は台地上の上川原を除き、南部の湧水地域に形成され、稲作や畑作を営む農村でした。また、この頃の高摩川には、築地の渡し、平の渡し、拝島の渡しの3つの渡しがありました。（明治時代には、「滝の渡し」もできました。）

明治時代になると、明治4（1871）年の廃藩置県などを経て、9ヵ村は、神奈川県に編入されました。その後、9ヵ村は、立川村を加えた10ヵ村の連合村を構成しましたが、明治22（1889）年に市町村制が施行されると、立川村が分離し、明治26（1893）年の東京府編入を経て、明治35（1902）年には拝島村も分離独立しました。8ヵ村の組合村時代は昭和の初期まで続き、昭和3（1928）年に8ヵ村組合村は昭和村となりました。

明治5（1872）年に学制が公布され、この年、市域では後の玉川小学校につながる福島村私塾が生まれ、翌年には成隣小学校の前身である執中学舎が、更にその翌年には拝島第一小学校の前身である知速学舎がそれぞれ開校されています。

明治から昭和初期までの市域は、八王子など近隣の製糸業に支えられ、蚕種製造をはじめとする養蚕が盛んであり、市内は青々とした桑園でうめつくされていました。また、鉄道では、明治27（1894）年開通の青梅線をはじめ、五日市線、八高線がこの間に開通し、拝島駅は多摩有数の結節点となっていきました。時代が進み、日中戦争が始まった昭和12（1937）年頃から、軍需工場、軍施設が相次いで設置され、大桑田地帯であった地区も工場地帯として急激に変貌しました。これに伴い人口も増加し、昭和16（1941）年、昭和村は町制を施行しました。

昭和20（1945）年、第2次世界大戦の終幕とともに、軍需工場は平和産業に転向した一部を除き廃業し、旧軍施設の多くは米軍に接收されました。

昭和29（1954）年5月、前年に町村合併促進法が施行されたことを受けて、昭和町と拝島村は合併し、昭島市が誕生しました。「昭島」の名は昭和町の「昭」と拝島村の「島」をあわせたもので、両町村の恒久的和合と団結により一つになることを祈念してつけられたものです。昭島市としての歴史の一步を踏み出した当時の人口は36,482人、世帯数は8,113世帯でした。

昭島市となった以降、昭和30（1955）年代には市内各所に公営住宅が建設されるとともに工場も誘致され、さらに都心から1時間という地域性から人口も急激に増加し、昭和62（1987）年4月には多摩地域で15番目の10万人都市となり、首都圏の中核的な都市の一つとなりました。

平成に入ってから、平成9（1997）年に田中町一丁目に現市庁舎が完成し業務を開始しました。他にも地域集会施設や高齢者福祉センターの建設をはじめとした各種公共施設の整備がはかられ、平成13（2001）年には保健福祉センター（あいぽっく）が開設し、コミュニ

ティバス（Aバス）の運行も開始しています。

平成22（2010）年には拝島駅自由通路の開通、平成28（2016）年には都市計画道路を中心とした拝島駅周辺の整備が完了し、西の玄関口にふさわしい都市環境となりました。

平成26（2014）年には市制施行60周年を迎えています。この節目の年に、多摩東京移管100年を記念した事業、TAMAらいふ21のウォーターサミットを機に「水」が取り持つ縁により、20年来の交流と友好を築いてきた岩手県岩泉町と「水と緑でつながる岩泉・昭島友好都市協定」を締結しました。

また、平成24（2012）年から本格的に始動した立川基地跡地の開発は、平成28（2016）年に一帯の町名が「もくせいの杜」と改称され、平成29（2017）年には法務省施設も建設されました。平成30（2018）年には東中神駅自由通路の整備が完了し、東の玄関口にふさわしい様相となってきています。

平成30（2018）年1月1日には、アキシマクジラの化石がコククジラ属の新種として、「エスクリクティウス アキシマエンシス（*Eschrichtius akishimaensis*）」の学名が付与されました。

新たな時代となった令和2（2020）年には、アキシマエンシス（教育福祉総合センター）が完成し、アキシマクジラの化石の原寸大レプリカがエントランスホールに展示され、市を象徴する施設となりました。

今後も市民が安心して快適に暮らせる施策を推進し、更に住みよいまちとして発展成長していこうとしています。

アキシマクジラのメインページ

<https://www.city.akishima.lg.jp/li/040/040/010/index.html>



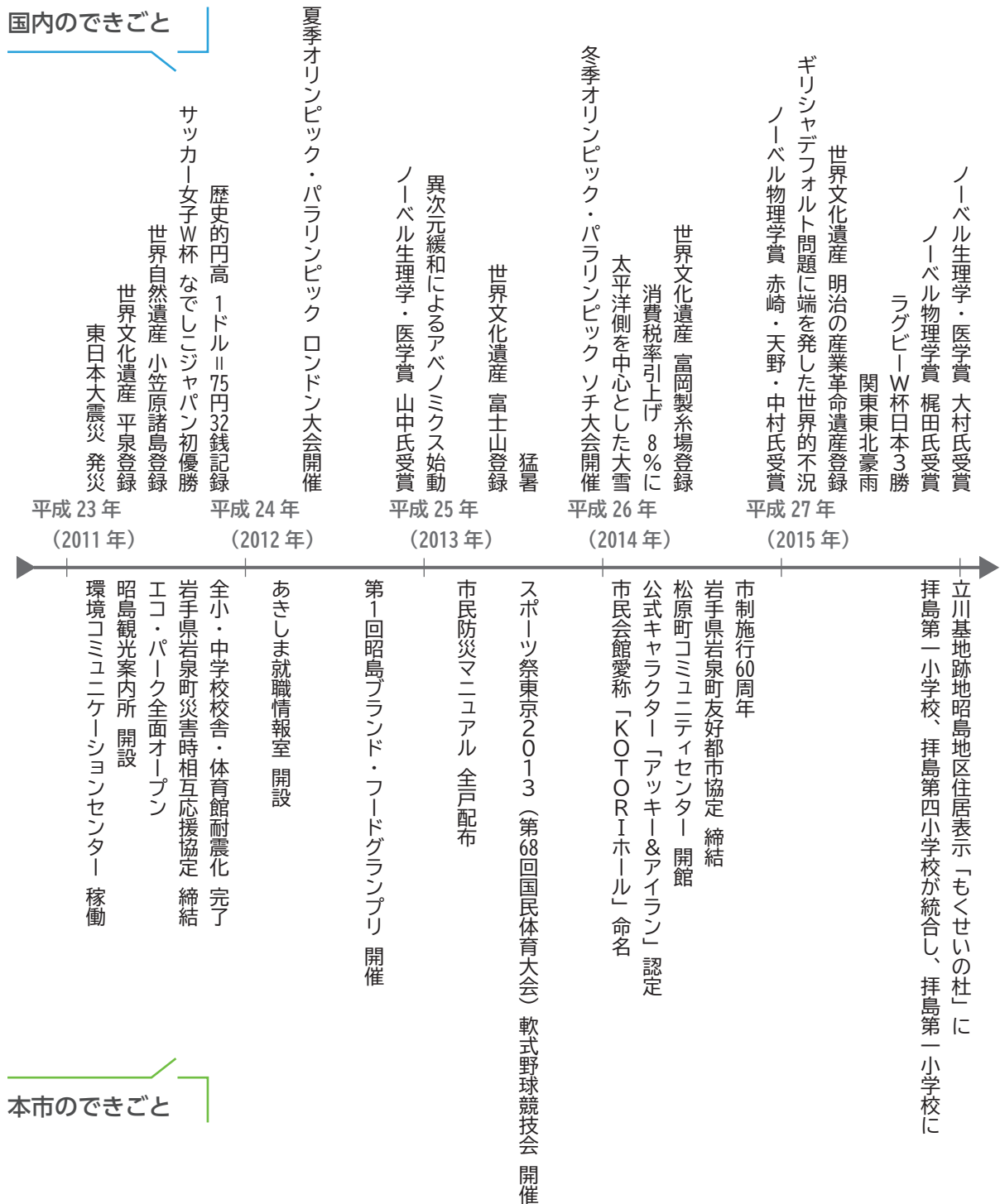
昭島市デジタルアーカイブズ「あきしま 水と記憶の物語」

<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/1320715100/index.html>

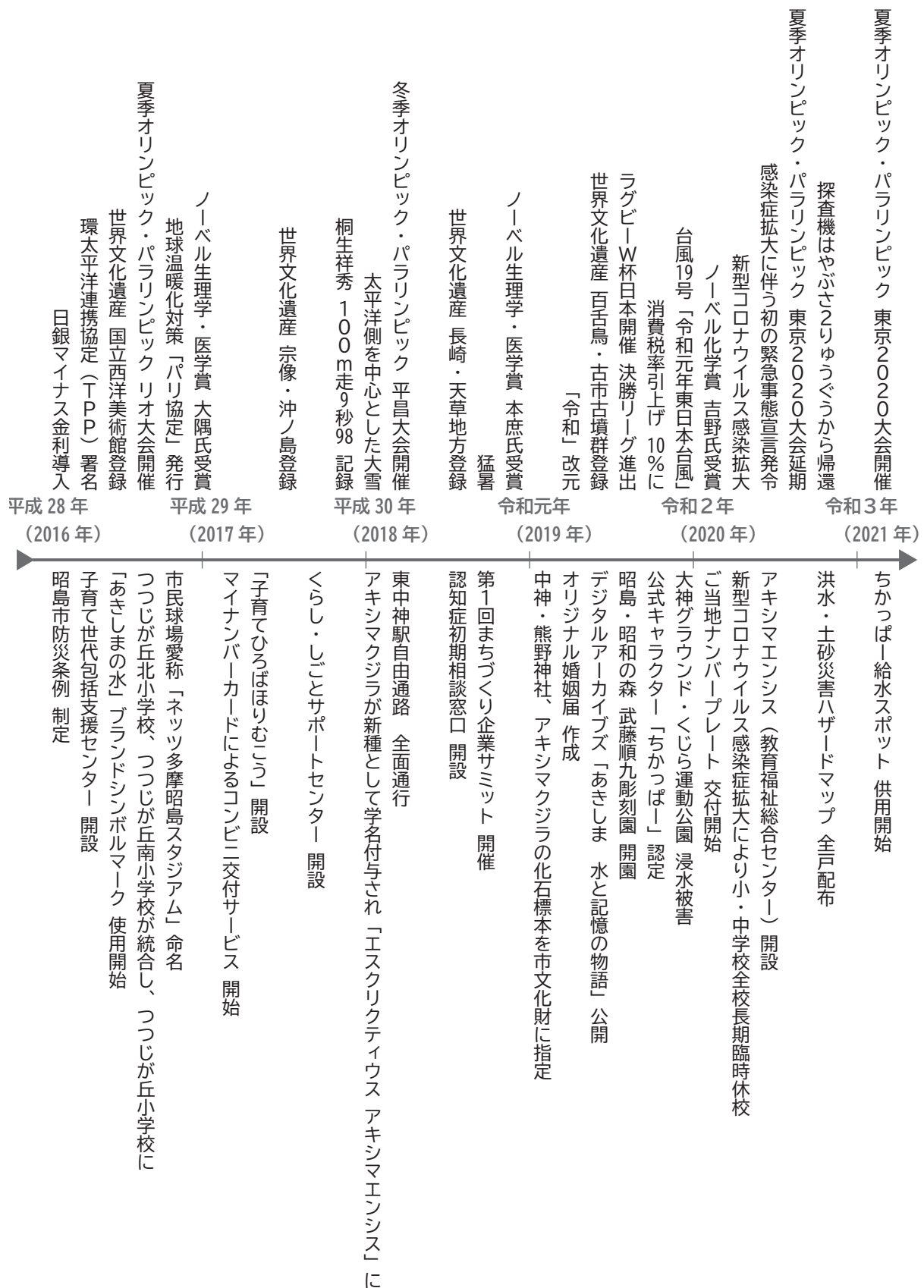


■ 第五次計画策定以降の主なできごと

国内のできごと



本市のできごと





市章

黒字が「昭」を表し、内側の白地の4つの「マ」が「島」を表しています。そして、円によるまとまりによって、和と団結を象徴しています。



市の木
もくせい

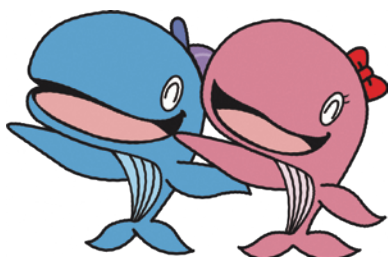


市の花
つつじ

昭和49年に、市制施行20周年を迎えたことを記念し、市民応募により制定されました。

昭島市公式キャラクター

アッキー&アイラン



多摩川で見つかったクジラの化石「アキシマクジラ」をモチーフにしたキャラクターです。
男の子(青)が「アッキー」、女の子(ピンク)が「アイラン」で、いつでも仲良し。

ちかっぱー



深層地下水100%の安全でおいしい水道水「あきしまの水」のイメージキャラクターです。
名前の「ちかっぱー」は、「地下水」と「かっぱ」に由来しています。

「あきしまの水」ブランド シンボルマーク



AKISHIMA
Thanks to you

深層地下水100%水道水のまち・昭島



「あきしまの水」とともにある暮らしに誇りと愛着を持つ市民や事業者のライフスタイルをブランド化しPRするためのシンボルマークです。

シンボルマークに「あきしまの水」への感謝を表す「AKISHIMA/Thanks to you」を組み合わせたものがオフィシャルデザインです。